20210523レムナント教会1部

**無知の悲劇** **(Ⅰサムエル記13:11-14)**

　誰しもが失敗したいという人は一人もいないと思います。しかし、失敗するか、成功するかが、ただその人の意志に左右されるだけのものではないということをまず心に留めていただきましょう。イスラエルの初代の王として抜擢された人がサウルという人です。それはとてもすばらしい名誉に当たるものでしょう。しかし、残念ながらサウル王というのは、失敗者の象徴的なイメージを持ちます。初代王として抜擢されたサウル王がなぜ失敗者の象徴になってしまったのでしょうか。それを信者の私たちは真剣に問いかけて、聖書からその答えを見つけないといけません。その理由が詳細に今日の聖書に書いてあります。サウル王が敵と戦うために陣営を敷いていました。その戦争の前に神様に犠牲のいけにえをささげて、神様の助けによって戦争しないといけないものでした。そのいけにえをささげる行為は誰しもができるものではなく、祭司だけに許されているものなのです。それが神様の命令です。しかし、祭司のサムエルがなかなか来ないので、焦ってこのままではだめだろうと自分なりに判断し、「いけにえを持ってきなさい。私がささげるから。とにかく神様に助けを求めて戦争に臨まないといけないから」ということでサウル王がいけにえをささげました。王の権限でそのようにしたかもしれません。そこにサムエルが遅れてやってきてその光景を見て「なんということをしたのか」と非常に怒りを露わにして「神様はあなたを捨てられたのだよ」とひどいことを言うようになります。そこからサウル王の人生は、失敗の下り坂をずっと行くようになります。これがそれほど大変なミスだったでしょうか。いけにをささげる神様の命令、ルールを破ってしまったということです。しかし、それにはサウルの自分なりの理由がありました。つまり、それが大義名分でありますが、敵が目の前に来ていてこれから戦争に臨まないといけないのに祭司はなかなか来ない。そういう自分なりの理由がありました。それでルールを破っていけにをささげてしまいました。今で言いますと、分かりやすく申し上げますと、キリストより先に大義名分を先走らせてしまったということなのです。キリストの福音を自分勝手に脚色してしまったということです。それはそんなに大きな問題なのかと思うかもしれませんけれども、聖書を通して神様はそれを警告なさって、今を生きる私たちに教訓として残していらっしゃいます。サウル王が自分なりの理由があったでしょうけれども、福音より違うものを先走らせたということです。裏を返しますと、サウル王が福音に対して正確に分かっていなかった、福音に対して無知だったと言えるものでしょう。それがこのような悲劇を招いてしまったということです。ここで私たちに神様が語っていらっしゃるメッセージ、今を生きる私たちが本当の意味で成功の美しい人生を歩むために求められることが何かということを考えなければいけません。

その第一が何かと言いますと、

1.福音に対する無知は人生を失敗に走らせるものだということです。

私たちはつい条件さえ揃えれば成功するだろう。また、環境、条件が恵まれていないので私はこのようになるしかありません。失敗しましたとついつい言います。しかし、今日限り、クリスチャンの私たち、特にレムナントの皆さんは、そのような考え方を捨てないといけません。失敗の理由はそこにあるわけではありません。福音に対しての無知は、人生の失敗を招いてしまうのだということを心にしっかり肝に銘じていただきましょう。サウル王は、実は人間的な条件において他の人より有利な人でした。外見を見るととても優れた人間なのです。Ⅰサムエル10：23には、このように書いてあります。「人々は走って行って、そこから彼を連れて来た。サウルが民の中に立つと、民のだれよりも、肩から上だけ高かった」。身長の面において、外見のいろいろな条件において、他の人より優る有利な条件を持っていた人なのです。それに留まらず、人柄も非常に謙虚な人でした。10：22を見ますと、「それで人々がまた、主に、「あの人はもう、ここに来ているのですか」と尋ねた。主は、「見よ。彼は荷物の間に隠れている」と言われた」。サウル王をイスラエルの王にしようとサムエルが来たときに、彼は前面に出ないで身を隠していたわけです。このように人柄を見ても、非常に謙虚な人に間違いありません。しかも彼をイスラエルの王にするために神様は、10：10を見ますと「彼らがそこ、ギブアに着くと、なんと、預言者の一団が彼に出会い、神の霊が彼の上に激しく下った」とあります。当時は聖霊の内住という時代ではないので、神様によってその場、その場、必要に応じて聖霊が激しく働くことになります。イスラエルの王になるために神の霊が激しくその人に働くようになった、そのような経験もしていた者なのです。そして、そういうことを経て、彼は神様の許しの中でイスラエルの初代の王座に就くようになりました。つまり、人間的な言葉で申し上げると、成功を収めたともいえる人間なのです。このように人間的な条件や様々な面を見ても、サウル王は非常に恵まれている人間だと思います。このような私たちがついこれさえあれば成功するだろうと思うような良いものをたくさん持っていたにもかかわらず、彼は今日の聖書から見られるように福音が良く分かっていなかったのです。そうすると、そういったすべてが成功を進めるものではなく、何の役にも立たない結果になってしまいます。キリストより違うもの、それがどのような大義名分であっても、それを先立たせるようになる場合は、そういったものが自分の人生の成功に何の役にも立たなかったということを私たちは分かるようになります。つまり、サウル王はキリストより違うものを、どんな理由があろうが前に持ってきたということは、Onlyキリストという信仰に立っていなかったということでしょう。そうすると外見的に恵まれて、人柄がとても良い人で、ときには神の霊に激しく感動を受けた人であっても、成功を収めて皆に羨まれるような人間であっても、徹底的なダメージを受けるようになります。つまり、サタンの攻撃には勝つことができません。サタンの攻撃を免れることはできないわけです。そうすると、どんなに条件的に恵まれていたとしても人生は失敗になるしかありません。それゆえサウル王はその後、ダビデの登場とともに人との比較意識に捕らわれるようになり、競争心に走り、また、心の不安を抑えることができないまま嫉妬に走ることになりました。まるでカインとアベルのときに、カインが捕らわれていったのと全く同じ状態になりました。分かりやすく申し上げますと、創世記3章の自分中心、創世記6章の肉が中心であり、創世記11章のこの世のもの中心というものにまるごと捕らわれるような状況に追い込まれることになりました。なぜなのでしょうか。福音が分かっていなかったので。onlyキリストではなくて、何かの事情によって、何かの理由によって、キリストより、福音より違うものを前に持ってくるような状態だったので。あげくにサウル王は悪霊にとりつかれることになり、犯罪に走り、そして、ダビデを殺そうとして人殺しの罪の道を走ることになります。最終的には戦争に負けて、自分で自分の命を絶ってしまうような悲惨な結末を迎えることになりました。福音に対する無知は、単に分かっている、分かっていないと簡単に終わる話ではありません。数学の知識が少し足りない、科学や何かの勉強の知識が少し足りない。それは本当の意味で無知とは言いません。そういうことであまり悩まないでください。本当の無知というのは、福音の無知なのです。多くのクリスチャンが、レムナントでも学校の知識が足りないことはとてもデリケートであっても、福音に対して無知、また曖昧であることにあまり敏感にならない場合がありますが、それは霊の世界、霊的な事実が全く分かっていないからでしょう。もはや福音そのものに対しての理解が全く不十分であることの裏返しのようなものなのです。福音の無知というものはサタンの攻撃と直結されるものであって、最終的に悪霊にやられるしかないものなのです。なのでそこに成功などは、はなから期待することはできません。存在しません。残念ながらこれも知らずに教会に通っている学生さんでも、条件さえあえば、成功さえ収めれば、人生輝くようになるだろうと思います。福音を無視したまま。それこそ愚かなことです。一が分かって十が分かっていないようなことであり、目に見えることがすべてだと思う世の中の人と全く同じ次元の人生を歩んでいることではないでしょうか。なんと残念なのでしょうか。

もう一度改めて申し上げましょう。人生の成功、失敗というものは、人間的な条件に左右されるものではありません。それによって泣いたり笑ったり、自慢したりへこんだりしないでください。特にレムナントの皆さん。むしろ人生の成功と失敗にこだわるのであれば、聖書に基づいて今日のサウルを教訓にして福音そのものにフォーカスを合わせてください。結婚も結局同じです。なのでこれを裏返しますとこのように言えるものではないでしょうか。これが2番です。

2.福音を正しく知るということは、人生の成功の鍵なのです。

どのような環境、どんなに険しい状態であっても構いません。たとえ死の影の谷を歩くことがあっても、捕虜にされた状況であっても、そういうことは言い訳にもならないし、一切壁になりません。私の成功の人生を邪魔することにはなりません。福音を正しく知ることさえあれば。福音を正しく知るということは、どういうことなのでしょうか。死ぬ時までずっとそういうお話をしないといけないでしょうけれども、ものすごく簡単に短く一言で申し上げると、Onlyイエス、これこそが福音です。悪かったこと、良かったこと、いろいろあるでしょう。それが何の気にもならないし、その意味を失うようになること、それをOnlyイエスと言います。正しいこともあるし、正しくないこともあります。それから、私に優しくしてくれた人もいるし、私を無視した人間もいます。感情的にいろいろな反応というものは当たり前かもしれません。しかし、Onlyイエスというものは、そういったものがすべて意味を失い、力を失い、そこから自由になるということなのです。Onlyイエスの意味を正しく理解しないといけません。私たちは正しいか正しくないか、正義なのか不義なのかなどにものすごくデリケートで、それで偉い人間だとついつい思いますけれども、それは霊的な世界が分かっていないがゆえに、福音もよく分かっていないことなのです。教会の中でも、世界中の99％の教会はそちらの方に走っているのです。それは社会のためなんだ、人類のためなんだという大義名分をもって。何が本当の日本のため、人類のためなのでしょうか。Onlyイエスなのです。幸せだったのだな。不幸だったのだな。いろいろな評価、いろいろな記憶、思い出などがあるでしょうけれども、それがすべて意味を失い、力を失うこと、Onlyイエスなのです。私たちはそういうものにこだわるので結局は誰かのせい、何かのせい、誰かのおかげ、何かのおかげということに縛られるようになるしかありません。そういうことに一切縛られないことをOnlyイエスと言います。人にありがたみを感じる、それを忘れないという礼儀や道徳そのものを否定するつもりはありません。しかし、それに縛られることなどはありません。Onlyイエスなのです。Onlyイエスにならないので、他のものが大きいから、そういうことによって自慢することもあるし、あるいは逆に傷を抱える場合もあります。自慢することもなく、傷を負うようなこともありません。それがOnlyイエスなのです。Onlyイエスにならないと、サウルのように悪魔、サタンにやられるようになります。教会に通っていても。もちろん救いが取り消されるということはありません。しかし、一回限りの人生、成功ある人生は期待できません。もったいないのではないでしょうか。せっかく何十億の人口の中で、特に0.3％にも満たない日本の国の中で神様に選ばれて、せっかくいのちあるクリスチャンになったのに、このOnlyイエスにならないがゆえに、人生そのものがそこら中の人と同じようなものになって、一緒に流されるということはなんと残念で悲しいことでしょうか。Onlyイエス、これが刻印、根、体質になること、これこそが福音なのです。もしかしてここにいらっしゃる方の中で、人生の限界だと感じる経験をしていらっしゃる方がいますでしょうか。とくに精神的な様々な問題、人には言えない悩み事を抱えて、あるいは頭の中があまりにも複雑でコントロールができない、そして、どうしても許せない人、許せない何かの事柄というものでいっぱいになっている方はいらっしゃらないのでしょうか。それなりに理由が、そうなるしかない理由があるでしょうけれども、今日、ここではっきりしときましょう。いろいろなきっかけ、理由、それはすべて事実だと思います。しかし、それは目に見える事実に過ぎないものであって、なぜそのような限界にぶつかりアップアップしているのか。それは一言でOnlyイエスでないからなのです。認めましょう。裏返しますと、Onlyイエスの信仰に立ちなさいという神様のプッシュなのです。なぜ神様はそのようにしてまでOnlyイエスにこだわるのでしょうか。それ以外に悪魔が逃げ去る方法はないし、本当の意味で成功ある人生を歩んでもらう道はそれ以外にはないからです。聖書の知識が豊富だから成功ある人生を歩むわけではありません。Onlyイエス。レムナントも家庭の様々な事情があり、また、親、教会の教師などがこうしなさい、ああしなさい。これがレムナントなんだ、しっかりやりなさいと言われて、なるほど、そうかなと思っていても、なかなか精神的について行けないし、自分でコントロールできないいろいろな問題を抱えているかもしれません。そのすべてがonlyイエスになるための神様のプロセスなのです。他のややこしいいろいろなことを考える必要などはありません。大人になってそうなると大変な苦労をするしかありません。今レムナントのときに自分の悩み事や霊的な問題、家庭環境、様々なこと、そこでOnlyイエスの信仰にしっかり立つようになりましょう。このOnlyイエスの信仰に立ったときに、その人はまことの成功の人生を歩むようになります。その成功の人生の門が開かれます。成功の人生というものは、偉い人になることではありません。どのような仕事、職業、どこにいるか、そういうことは関係ありません。ときには牢屋に入れられる場合もあります。ときには総理大臣になる場合もあります。お医者さんになる場合もあります。患者さんになる場合もあります。成功ある人生は、世の中の人がまねできない霊的な見張り人として、霊的な医者として、キリストの大使として、人生を生きるということです。どこの現場にいても、どういう職業の人間でも構いません。これこそが成功ある人生なのです。Onlyイエスにならない限り、この人生の門は開かれないでしょう。しかし、言葉を変えますと、他の条件に恵まれていなくても、どんなに険しい環境の中に置かれていたとしても、Onlyイエスさえできれば、その人はそのすべてをとっぱらってヨセフのように、パウロのように、ダビデのように、ダニエルのように、成功者としてしっかり立たされるようになるということをぜひ信じていただきたいと思います。

　いま、ここにいらっしゃる信徒の皆さん、特にレムナントの皆さん。どのような条件、どのような環境に置かれているのでしょうか。その条件と環境によって、もしかして安心して浮かれることがあるでしょうか。あるいは逆にがっかりして失望するときがあるのでしょうか。どちらでも正解ではありません。そこで気をしっかりして霊的事実、霊的な世界を吟味をして認めるようにしましょう。これがない限りOnlyイエスにはならないし、メッセージがメッセージとして届かないのです。霊的事実、いま目に見えないけれども人々はサタンに捕らわれていて、罪によってのろいの運命に捕らわれて、地獄の背景を背負って生きているわけです。これに人柄が通用するのでしょうか。優れた外見そのものが通用するのでしょうか。何一つ役に立ちません。霊的な事実、少なくとも今3つの単語を申し上げました。悪魔、サタン、罪によるのろいの運命、地獄の背景。この単語さえずっと頭の中で巡らせてみてください。イエス・キリストだけが自分の人生の解答として整理されるようになるでしょう。良いこと、悪いこと、そういうこと一切関係ありません。どんな理論があれ、どのような論理が展開していても構いません。私の人生の答えはイエス・キリストしかありません。Onlyの方に整理されて、それを告白することになって、そうすると、必ずこのような告白に結びつくようになります。ピリピ3：8、キリストを知る知識のすばらしさのゆえに、すべてのことをちりあくた、損と思う。何が気になるのでしょうか。正義がそれほど気になるのでしょうか。不義がそれほど気になるでしょうか。世の中に正義などあると思いますか。悪魔に支配されている世界に正義などあると思いますか。もちろん神様がたましいの救いのために、世界を維持するために、様々な法律やいろいろなものをコントロールしていらっしゃいます。しかし、そこには限界があります。だから、教会が許されていて、だから、私たちが霊的医者、見張り人としてこの世に派遣されているということを忘れてはいけません。混同していてはいけません。このように整理して、自分も知らない内に、イエス・キリスト、福音より前に持っているもの、それより大きくなっているものが、自分の中になんなのか、あるかどうかということを素直に吟味して考えてみてください。それが理論なのか、何かの野望なのか、教えなのか、感情なのか分かりませんが、それに対して改めてピリピ3：8、そのすべてがちりあくただと告白する信者になりましょう。

　そうすると、自分が生きたい人生を生きるのではなくて、神様が備えていらっしゃる成功の人生、CVDIPを生きるようになりますので、このようにOnlyイエスと信仰を整理して、ピリピ3：8を告白して、それから特にレムナントの皆さん、祈ってください。自分が生きたい人生ではなくて、自分が夢見ている、描いている人生ではなくて、神様のCVDIPを見せてください。教えてください。イエスのあかし人として、霊的な医者、キリストの大使として生きる、私にとってのCVDIPはなんでしょうかと素直に祈ればそれで結構なのです。神様は今も祈りを聞いていらっしゃるし、必ず答えられるお方です。いまも天使を動かして、私たちの祈りをすべて受け取って、その祈りを叶えていらっしゃる神様です。目に見えるものだけに縛られて、偉そうに賢いと勘違いしないで、霊的事実を吟味して、吟味して、聖霊充満を求めつつ聖霊に満たされると、その霊的な世界がただ文字にあるものではなくて、今現実として見えてくるようになるのではないでしょうか。だから、Onlyイエスになるしかありません。2部礼拝でも申し上げますけれども、生活そのものもOnlyになるしかありません。何一つひっかかるものなどありません。それをOnlyと言います。そういうときに唯一性、神の国が何か分かるようになります。皆さんはサウルのような人生ではもはやありません。イエス・キリストを信じて受け入れたレムナントです。なのでせっかくここまで神様が招いて、また、祝福を与えられたので、感謝してOnlyイエスがどれほど大切なのか、霊的な戦いにおいて、これは勝利の鍵なのだと。もしこの鍵をなくせば、この鍵をどこに置いたのか忘れてしまえばやられるしかないのだねという気持ち、心構えでOnlyイエスの信仰に皆さんの信仰を整理する祝福を祈りたいと思います。

（祈り）

恵み深い父なる神様。サウル王の福音の無知の悲劇について、今日教えられました。それを教訓にして感謝とともに、イエスがキリストであり、Onlyイエス、この信仰告白の意味、そして、このパワーを正しく理解し、自分の信仰をしっかり吟味してOnlyイエスの信仰に立ち、まことの成功の人生を歩むことができるようにひとりひとりを祝福して導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン